

<これってデート DV? >

Q: 彼女がタバコ嫌いで、もし自分が吸ったら別れると言う。しかし、自分は吸いたいと思っている。これはデート DV になりますか。

→ たばこを吸うか吸わないかは各人の自由です。基本的に、彼女があなたの趣味や自由領域を制限するのはやり過ぎだと思います。しかし、彼女が嫌がるなら、まず彼女の前では吸わないのは必要ですね。そのうえで、彼女がいないところで吸うのは自由ではないかと思いますが、口臭とかで彼女は嫌なのでしょうか。部屋にも匂いが残るしね。ですから、原則的には、彼女に、「あなたの前ではないところでの喫煙は認めてほしい」と言って、了解してもらった方がいいかと思います。しかし彼女には深い理由とか、とにかく強烈な嫌悪感があるのかもしれませんが、どうしても彼女が喫煙を許せないなら、彼女にはあなたから離れる権利があります。あなたが彼女を失いたくないから、我慢して禁煙するというのもあなたの選択です。あなたにはたばこを吸うか吸わないか、彼女を選ぶかという選択はあります。ただし、通常なら、目の前で吸わないというところで調整できる問題のはずだと思います。もし彼女が、あなたを支配したいというのが主目的で、たばこ問題も優位に立ちたい象徴だというなら、それはデート DV だというべきでしょう。他の点でのあなたと彼女の関係が問題かと思えます。

Q: もし、付き合っている男女が両方束縛したいタイプの場合、デート DV は成立しないのですか。

→ 両方が束縛したいとしても、片方 (A) が相手 (B) を束縛したことで、B の自由や成長が阻害されていならそれは A による B に対する DV です。また B も束縛をするなら、別の時には B による A への DV ともいえます。つまり、双方が相手に DV している関係です。これは、A が B を殴り、別の時には B が A を殴っている時、暴力ではないといえるかということ、それはやはり暴力で、双方が暴力をふるっているということになるのと同じです。どんな時でも、殴るのも、DV (相手の成長を邪魔する束縛) も駄目です。

ただし一見、双方が束縛したいとしても程度がかなり違って、片方がとても強く束縛していて、もう一人の束縛が強くない場合、強者の側による DV と見るべきでしょう。両者の力関係や恐怖心、自由や成長の妨害程度が問題です。

Q: 友人関係を制限するという事はないのですが、友人に「結婚する」と言って回って別れにくくするという行為は、デート DV に含まれますか。

→ 結論から言うとそれはデート DV です。というのは、付き合っても結婚するかどうかなど全く誰にもわからないことです。友人に「結婚する」と言って回っている A さんは、別れにくくさせて、相手である B さんの別れる自由を奪っています。B さんは、他の人に A さんと付き合っていることを知られたくない場合もあります。その意味ではプライバシーの侵害です。結婚するとまで言われると、みなにあの二人、そこまで行ってるんだと思われて、B さんの自由が制限されます。友人関係を自由に作ることに影響がでるかもしれません。皆

に「私の恋人 B に手を出すな」と言って回っている面もあり、これも所有物のように扱っている面があります。誰と付き合っているか、どの程度好きかは、それぞれが自分の判断で自分の言いたい人にだけ言うべきこと（プライバシー、個人情報）です。ネットに名前まで含めて「私は彼女（彼）と結婚します」と書き込むのと同じく、皆に勝手に結婚するなど言うのはやり過ぎで、暴力的ですね。「勝手にそんなことを言って回らないで（すぐにやめろ）」と釘をさすべき問題です。それを守らない人には怒ってください。そしてやめないならば、別れるほうが良いと思います。

Q：彼氏が他人の悪口を言った時に罵倒したら DV になりますか。

→ 「罵倒」するのは、恋人であるあなたですか？彼氏が他人の悪口を言った時に、付き合っている恋人であるあなたが、そんな悪口を言わないでほしい、聴きたくない、ということなら、その言い方が問題です。「罵倒」と言うのはひどい言葉でののしることですよね。それはやり過ぎというか、言い方が適切ではないです。

しかし、「そんな悪口を言わないでほしい、聴きたくない、そんなことをいうべきでないと思う」というあなたの意見を持つのはあなたの正当な権利ですし、それを伝えるのも、ひどい言葉でないならいいことだと思います。「私はこう考えるので、私の前であまりそういうのは言わないでほしい」というように言ったら、それは DV ではないです。あなたの意見を尊重して態度を変えてくれる彼氏であつたらいいですね。

<事例について>

Q：最近相談された内容を紹介してください。

→ そのままでは出せませんが、いくつかの事例を踏まえたものとしては、たとえば以下のようなものがあります。

事例① パートナーの言動を聞き出す。どこに行っていたか、何をしていたか。その証拠を出せという。それを覚えていて、あとで責める。彼が私の大事なものを捨てさせる。特にパートナーが「自分からみでないところ」で活躍する関係のものを捨てさせる。「必要ないだろ」と言って。本当は別れる気がないのに、「終わりにしよう」というようなことを言う。そしてまたしばらくすると接近してくる。

事例② 別れたいというのに別れてくれず、「会って話さないといけないことがある」「これで最後」「家でしか話せない」「最後に渡すものがある」などと、何やかんやうまく言って部屋に入ってくる。そして結局、別れてくれない。そして携帯や財布をとりあげて帰れないようにする。帰るといって殴られる。

Q：女性が加害者になったデートDVの例を他にあったら教えてください。

→ 以下のようなケースがいくつかあります。

事例③ 毎日電話とメールですぐに返事しないと怒られるので、いつも気を使っていた。10分以内に返事しないとだめ。彼女が寝るまでは安心できない生活になっていた。最初は愛されている証拠と思っていたが、次第に自分の時間が減り耐えられなくなっていった。付き合った女性を絶対的に守らないといけないと思っていたので、「メールをやめて」と言えなかった。

事例④ 恋愛していないころは一人でも平気だったのに、一度付き合いと相手に依存し、相手を失うのが怖くなるのだと知った。相手から「どうして別れないといけないの？私は好きなのに」「別れるなら死ぬ」と言われて、別れられなかった。

<DVってなおるの？>

Q：デートDVはなおりますか？

→ なおる場合となおらない場合があります。ちゃんとデートDVのことを学んで反省して変わる人はいます。しかし、そんなことを勉強せず、聴く耳を持たず、恋人が「それってデートDVだからやめて」と言っても反省しない人もいます。「そういうことはやめてほしい」とか言って、徐々にグレーゾーンでDVの程度が低い方に関係が変化していくなら希望が持てます。少し言った時に、かえって怒るような人はDV性が強く、多分なかなか変わらないでしょう。変わらないとわかったら離れることをお勧めします。

Q：デートDVの加害者が精神的に成長してDVしなくなる可能性はあるのですか？

→ これも上記と同じ回答です。相手の声に怒らずに素直に耳を傾けて、相手を大事にして、変わろうとするかどうかです。

Q：デートDVの被害に遭った場合、加害者と離れる（別れる）のは当然必要だが、加害者をその後更生させることはできるのか。加害者が更生しないと、被害者はどんどん増えていきそう。

→ 加害者更生プログラム（加害者暴力防止教育プログラム）というのが日本でも一部で行われています。そこに行くのがよいです。DV法を改正し、罰則の強化とともに、加害者はみなそのプログラムを受けないといけないようにすべきです。大学なども加害者とわかれば、そうした教育プログラムを受けさせるようになっていくことが必要でしょう。しかし日本ではまだ加害者更生プログラムをやっているところが一部でしかないということが問題です。

<DVの男女差について>

Q: やはり、DVは男性から女性に対してのものの方が多いのでしょうか。

→ 授業でも答えたように、身体暴力を含む怖いものは、男性が加害者の場合が高いです。

最近の京都市の調査（大学生対象）では、DV被害的なことをされてどう思ったかで、「怖かった」と答えたのが女性は25.2%もあったのに、男性は1.4%に過ぎなかったため、ここから男性が受けている被害の「軽さ」を推測することができます。「いやだった」も女性が60.0%であるのに、男性は31.9%でした。身体的なDVで、「壁をたたいたり、物をけったりする」「殴るふりをする」は男女で被害に有意な差があり、男性は怪我をさせていないから大したことではないとみなしやすいが、客観的には「この人は何をやるかわからない」という恐怖感を相手に与えるので、かなり程度のひどい暴力行為であるといえます。この点ではジェンダー差があることはおさえておくべきでしょう。

しかし軽いものを入れると男女とも同じような率でDV被害が出ています。

Q: デートDVの被害の度合いに男女差はありますか。

→ これについては上記ですでに答えました。別の調査（「ウィメンズネット・こうべ」の調査、高校生対象）を紹介すれば、

- 「社会的暴力」（携帯電話のメールチェック、他の異性友達との付き合いを制限されたりする束縛） 女子 32%、男子 20%
- 「精神的暴力」 女子 27%、男子 15%
- 「身体的暴力」 女子 15%、男子 9%
- 「性的暴力」 女子 17%、男子 7%
- 「交際相手を怖いと感じたことがある」 女子 34%、男子 13%
- 「相手に絶対逆らえないと感じたことがある」 女子 28%、男子 12%
- 「相手が自分より上（対等でない）と感じたことがある」 女子 33%、男子 14%

というようになっています。

<その他相談>

Q：素敵な人が現れません。これからもこのままで良いでしょうか

→ 現れないなら仕方ないですね。まずは、「そのままでもいいです」と答えたと思います。授業でも言ったように、まずは自分を磨くことですし、孤独もいい経験なので、あせる必要はないです。そのうえで、もし恋人がほしいなあと思うなら、一挙に恋愛といかなくても、少し素敵だな（すてきかも）と思う人を思いきって映画とかに誘ってみて、話をしてみても、相性を見てみたらどうでしょうか。全く素敵な人がいないということはないと思いますよ。逆にいえば、多くの人には何らかの魅力があります。友達としてその魅力を見つけていき、いろいろな話をしてみてください。結果として恋人に出会うかもしれませんが、友人関係でも素敵だと思います。また勉強とかクラブとか旅行とか、自分の好きなことをどんどんするのも素敵です。焦って恋愛する必要などありません。

Q：連絡がなさ過ぎて自由すぎるのは、付き合っているのにどうだと思えますか？

→ これも授業で答えたかと思いますが、付き合っているからといってべったり毎日いつも二人一緒、という必要はありません。恋人以外の時間があるのは健康的です。でも、恋人との時間も大事なことのひとつです。連絡がなくてさびしいならあなたから連絡したらいいのでは？ 自分の希望を伝えて、「二人の時間を持とうよ」という提案はいいと思いますよ。付き合っているんだから一定の時間をつくって、楽しむのは必要と思います。

Q：デート DV を受けているだろうな、でも気づいていない、という友人にはどう気付けてあげればいいのでしょうか？

→ 話を聞き、「嫌なことはない？ 勉強とかに影響ない？」と心配してあげてください。気持ちを聞いてあげてください。非難せず、相手の本音を安心して言えるように聞いてあげてください。そのうえで、徐々に、「それって DV っぽいようにも思うけど大丈夫」とかを挟んで、パンフレットを渡したり、WEB サイトを紹介し、話し合ってみてください。一緒に専門的な人に相談に行くのもいいかと思います。焦らず、しかし見捨てず、長く付き合っただけに情報を提供していくというようにしてください。

<その他疑問>

Q：日本では、デート DV を規制、取り締まるような条例などがなぜ不十分なのでしょう。この手のものは、万人にとって利となるものであり、議会も楽に通りそうなのに。北欧の福祉国などでは普通にありそうですが

→ 世界的にこの 20 年～30 年ほどで性暴力（レイプ、DV、ストーカーなど）への法規制は進んでいます。日本では、10 年前に DV 法とストーカー法はできましたが、まだまだ生ぬるいものです。これを強化すべきと思いますが、議員でも一部保守的な人の中には、そうしたことに興味がない人、それは男女関係とか家族という私的なものだからそんなことに介入すべきでないと考える人がいて、なかなか被害者の苦しみを助けようという声は大きくなりません。私はもちろん多くの議員がこの問題の深刻さを学んで早急に法律をもっと改善していくべきと思っています。

Q：いくつかの事例を見ると、デート DV が生じる中で「携帯」が大きな要因となっていると思うのですが、そういったツールがなければ、DV は現状よりも減少するのでしょうか。

→ そうですね。携帯の普及は大きな要因ですから、もし携帯がなくなれば、DV は今よりもしにくくなるでしょう。しかし、携帯はなくならないでしょうし、携帯電話がなかった昔もいろいろな束縛、DV はありました。大事なことはデート DV について正しく学ぶことです。

Q：デート DV にならない恋愛観のところで、異性の友人 OK で友人関係を邪魔しない、と書いてありますが、それは異性間の友情は成立する、という前提ですか？

→ はい、「異性間の友情は成立する」という前提があります。実際、友情関係があるからです。たとえ誰かが内心でこの人素敵だなと思っていても、それでも通常は友情関係が成立します。また、人の成長にとっていろいろな人と交流するのはとても有意義なことです。恋人の人間関係を制限できるなどと思うのがおかしいのだということを理解してほしいと思います。もし恋人が他の人を好きになっても仕方ありません。それを予防的に、「異性と会うな、遊ぶな」と制限するのは人権侵害です。自由も成長も奪っています。

Q：誰が DV を定義したのですか？

→ いい問いですね。どんなことも、誰かが一方的に決めつけられるものではないので、常にこうした疑問を持つのはとてもいいことと思います。

ところで DV の定義は、徐々に形作られていきました。多くの女性が被害にあい、それに気づいた仲間たちがそれを支えたり、怒ったりし、夫や恋人からの暴力に最初は特別な名前がないまま暴力と言っていて、抗議の声が出て、裁判もなされ、調査がなされ、学者が徐々に定義づけていったのです。そのように社会的な経験、多くの人々の営みによって概念は成立していきます。最初はまず被害実態とそれを告発する声なのです。

Q：過去に浮気され、トラウマを持っている人の DV はどうするのか。

→ 「過去に浮気され、相手が浮気するのではないかという恐怖心、心の傷を持っている人」がいるとして、その人は、また浮気されるんじゃないかと不安なんだろうね。だから不安ゆ

えに相手を過重に束縛（DV）してしまうということですね？

でもだからといって相手を束縛したり監視・自由制限をしてはだめです。つまりどんな理由があろうと目の前の人に対して DV してはだめです。束縛しなくても信頼できるような関係を作っていく努力をしましょう。もし恋人が他の人を好きになって自分が傷つくとしたら、それは仕方のないことです。恋愛にはそうした危険性はつきものです。どうしても DV してしまう人は、恋愛する資格はありません。自分を改造しない限り恋愛すべきではないです。一人でも生きていけます。寂しいからといった他人を犠牲にしてはなりません。

Q：カップル単位の価値観を無くすために、具体的にできることは何ですか？

→ 「DV 被害の悲惨さ、深刻さ」という実態を知って、やはりこれはだめだなと学ぶことです。そして DV ではない関係と言うものを学んで楽しく対等な恋愛をしていくことです。話しあったり、学んだりして徐々に、自然と、DV 性を減らした恋愛ができるようになります。またこのことを友人にも知らせていきましょう。またあなたがデート DV 防止教育をしていたり、調査をするとか、そうした活動をしている団体を応援すとか、できることはいろいろあります。でもまずは自分が学んで、自分が「対等な関係」を実践することです。

Q：なぜメディアではデート DV が肯定的に扱われたりする場合があるのか。

→ 授業でも答えましたが、メディアの作成者側で、デート DV 容認の考え=カップル単位を当然とする考えの人が多からずです。まだまだ DV についての学びが少なく、恋愛とはこんなもんだと思って作品を作っているのです。付け加えて、雑誌やテレビは、商品売りたい企業がお金を出してつくられています。恋愛や結婚をあおって、それに関連する商品売りたいので、美しくなるということとか、恋愛をあおるような情報が多くなっているのです。その結果、デート DV やジェンダーに無批判的な情報があふれてしまっているという面があります。

<講義中に取り上げた質問>

Q：価値観を押し付けられて、自分を否定される。どうしたらいいか。

→ 価値観を押し付ける人には、頑張って、「押し付けないでほしい」と言ってみてください。あまりに押し付ける人からは距離をとりましょう。

Q：恋愛には嫉妬ゼロだと成り立たないと思うのですが、「かわいい嫉妬」もデート DV になるのですか？

→ 嫉妬ゼロでも恋愛は成り立ちます。嫉妬=愛情というのが間違った思い込みです。好きだ、楽しいという感情自体は別に嫉妬はなくても成立します。

次に、もし内心少し嫉妬を感じても、DV をしてはならないと思っている人は、「嫉妬を表明して相手の自由を制限する」ということを意識してしないようにします。つまりそのようにして嫉妬を出さなくても恋愛は成立するようになっていきます。実際、私は嫉妬心を出さずに恋愛していますよ。

とはいうものの、いろいろな個性の人がいますので、現実的には「かわいい嫉妬」はあって

もいい場合があるとおもいます。相手の自由や成長をちゃんと尊重する恋愛になっているなら、冗談的に少しすねたり嫉妬したりして楽しむだけになっているだけなので、何ら問題はないといえるでしょう。

ポイントは、授業で話したように、嫉妬心が内面にあるのは別にいいけれど、それを表明することで相手の自由や自信や成長を奪ったらだめということです。ちゃんと相手の成長を大事にできているか、です。いろいろな人と楽しく交流して元気で楽しく成長できる毎日になっているなら、DV ではない恋愛だと言えます。束縛や嫉妬があつて、二人だけに閉じているような恋愛は、どこかで問題があるはずですよ。

Q：少し束縛したい気持ちがあるけど、相手に嫌われたくない、距離を保たなければと逆に思い込んで気を遣いすぎるのはデート DV になるのですか？

→ 「相手に嫌われたくない、距離を保たなければと思い込んで気を遣いすぎる」というのは、健康的ではなく、対等な関係になっていないということです。好きだからと言ってそこまで卑屈になる必要はありません。素敵な人なら堂々と意見を言い、対等になってこそ、さらに魅力的になります。私から見れば、相手に気を遣うだけになっているのはしんどそうで、魅力的ではないですよ。恋人としても、いつも気を遣われて、何でもイエスマンになっているのは、なんか気持ち悪いです。もっと自分に自信を持って、ちゃんと意見を言ってください。マトモな恋人ならそれを喜ぶはずで、それを嫌がるような人はおかしいです。そういう人には気をつけましょう。そういう人との恋愛関係を見つめなおしてください。自分の意見をいっても嫌われないということを再確認してください。しっかり自分の意見を持っている素敵な人になってください。

Q：僕は今まで本気で人を愛したことがありません。そもそも、人を愛するということがどういうことなのかが解りません。人を愛するということはどういうことなのでしょう？伊田さんが考える愛とは何ですか？

→ 何が「本気の愛」なのか誰にも一つだけの定義などできません。人によっても違うでしょう。一つだけではないと思います。一生、熱烈な恋愛感情を経験しない人もいるでしょう。でも本人が真剣に恋愛していればそれでいいと思います。自分でこれが愛だと思えば愛です。そのうち、もっと好きな人が出るかもしれません。焦る必要はないです。

軽い恋愛感情があるのも事実で、それはそれで仕方ないように思います。でも長く付き合う中で情にほだされ、ここまで私を愛してくれるんだからこっちも誠実にこの人を大事にしようという感情が湧くかもしれません。その意味では、相手を大事に思い、相手を傷つけないと思ひ、相手を幸せにしてあげたい、と思うのが一つの愛の形だと思います。

生育過程の影響が多くの人的人格にも影響しているので、愛情と言うものへの理解や実感は人それぞれです。愛を感じられないなら仕方ないです。人を信じられない人もいます。でも誰かと出会い、徐々にあなたも感化されて変わるかもしれません。

ところで、私は、ある人を大好きだと思った経験はあります。相手からとても愛されて幸せだと思った経験もあります。お互いが相手を本当に大事だな、かけがえがないと感じたこともあります。私の場合、心がきれいだなと思ってそこに惚れたこともあります。笑顔を

思い出すだけで心がほっこりするという経験があります。

私が言いたいことは、あなたが、ひどい人と交流していたら自分も汚れていくので、心がきれいな人と交流してほしいなということです。その中で、人を信じられるとか、尊敬するとかを純粋に感じられます。そういう中で、好きと言う感情が強くなって愛というものに出会うかも知れませんね。「デートDVと一体になったような愛」など知る必要も、実践する必要もありません。

Q：先日、ストーカーを警察に通報したら家族を殺されたという事件がありました。もしDVなどの被害に遭ったら、どのように対処するのが良いのでしょうか。

→ 話し合っただけで関係が変わる（DVをやめてくれる、あるいは素直に別れてくれる）ような人なら話し合いましょう。この人との恋愛はこれ以上は無理だな、別れたいなと思ったら別れましょう。

同じ大学だとか近いところの人の場合、別れる時と別れた後が心配ですね。危ないことが起こるかもしれないからです。確かにこれは大きな問題です。ですから一人で対処せず、まず、信頼できる友人に協力してもらい、DVに詳しい人（先生や女性センターの相談員）につながってください。そして安全な別れ方、別れた後の安全の確保の仕方の作戦を立ててください。基本的には、先生や大人、親、弁護士や相談員などを巻き込み、そういう大人（支援者）を同席させて別れ話をしてください。

そしてそういう支援者がついてるから、もしストーカー的なことをしたらすぐに警察に通報すると相手に伝えてください。並行して、事前に警察に、事情を話し、相手が家などに来るのが怖いので、もし連絡したらすぐに駆けつけることを頼んでおくのがいいと思います。そしてもし少しでも何かされたらすぐに大人の支援者に同行してもらったうえで、警察に伝えて、相手に「もう近付くな」という警告を警察からしてもらいましょう。

それでも止まらないなら逮捕してもらいようにストーカー被害を訴えることができます。主にストーカー法が使えるので、警察や弁護士に相談してください。証拠をできるだけとっておきましょう。携帯電話などが壊されていたら、器物損壊罪でも逮捕できます。

多くの場合、専門家や警察などが自分にはついてると思わせることで、加害者は諦めます。対処の途中で相手の家族や職場・学校の人にも話をして、相手の暴発を抑えてもらうようにすることも選択肢の一つです。

危険性を見極めながらも、諦めずに頑張る自分の自由や安全をとりもどしてください

Q：伊田先生はなぜジェンダー問題に興味を持たれたのですか。

→ 小さいころから正義感が強く、社会問題にも関心があるタイプでした。また素敵な女性の先生の影響も多く受けました。また時代がフェミニズムの面白い、説得的な理論を提起していたので、影響を受けました。男性も含めてだれもが性的に自由になり、誰かを抑圧しないようになることが大事だと思いました。恋愛も好きだったので、対等な恋愛観を持って、相手からも好かれて、対等な関係だと自信を持って誇りを持てるようにもなりたかったです。鈍感に古いジェンダーを女性に押し付けて平気と言うような人間にはなりたくない、それはカ

ツコ悪いと思えたので、そうはなりたくないなと思った面もあります。

そうしたいろいろなことが重なるなかで実際に現実の諸問題を学び、多くがジェンダー、カップル単位として絡まっているとわかったので、私にとってジェンダー問題は、社会システムをどうするかという点でも、自分がどう生きるかという点でも、当然組み込むべきものでした。ちゃんと本を読めば、その主張の正当性は僕には明らかだと思えました。そうしてフェミニストになっていきました。私の考えは社会全体をシングル単位の考えで再設計していくべきだというものです。男性でも当然、ジェンダーの視点を学ぶべきだと思いますよ。

Q：先生は婚活についてどう思いますか？マスコミが騒ぎ過ぎだと思います。

→ 私は、シングル単位の視点から結婚制度に批判的な立場です。結婚しているかしていないかに関係なくだれもが個人として平等に尊重される社会にした方がいいと思っているので、シングル単位を主張しています。そのうえで一部の人が楽しく親しい関係を持つのはいいけれど、それを見せつけて、公的な制度にまでして、パートナーがいない人を「下」に見たり差別するのはやめた方がいいと思っています。その立場から言って、今の社会は、恋愛や結婚をあおり過ぎだと思いますし、独身者や離婚者に不利な社会だと思います。

大事なことは恋愛や結婚という形にばかりとらわれるのではなく、そのまえに、各人が自立し、素敵な人になり、そのうえでいろいろな関係があればいいなと思います。結婚という形だけは持っているけれど幸せじゃない人はたくさんいます。お金のために別れられないけれど愛情がないカップルと言うのはたくさんあります。それが現実です。あなたたちがすべきことは恋愛や結婚という形を手に入れることではなく、自分が自立して素敵な人になることと、他者との対等な関係性です。